

大佛次郎研究会

第27回公开发表会



2016年
5月28日(土)

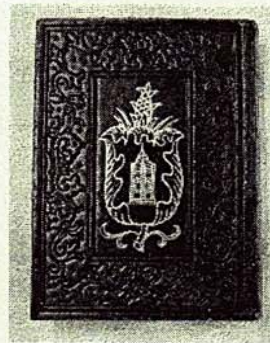
大佛次郎 1943年(昭和18)同盟通信社の囑託として訪れたシンガポールにて。この視察を境として「別の生き方が初まっている」と日記に記した。

1. 講演

「大佛次郎-戦局悪化の中、なぜ『日記』執筆を決意したか」

内海 孝(東京外国語大学名誉教授・大佛次郎研究会会員)

南の島々で玉砕があいつぎ、サイパンも全滅(1944年7月)…大佛次郎は犠牲者を深く悼みつつ、なお敗れずの心情を抱いていた。一方、戦争指導者たちへの不信をつのらせていく。その年の9月10日「日記」は書きはじめられる。戦局悪化のなか言論掣肘とせめぎあいつつ作家として苦闘する大佛の言動を検証し、戦時下に「日記」(『敗戦日記』1995年刊行後、『終戦日記』と改題して2007年刊)を書きはじめた意図を考察する。



「日記」表紙(左)と第一日目:1944年(昭和19)9月10日の記述(右)

2. テレビ映画

「天皇の世紀」第二期第16話〈大政奉還〉

(監督・大熊邦也 脚本・岩間芳樹)

3. 共同発表

「『天皇の世紀』入門」

～『天皇の世紀』を読む会(谷川勝利、中島志郎、神立美智子、沖田忠夫)からの報告

大佛次郎記念館で開かれた『終戦日記』読書会に参加した市民グループは、ついで大佛畢生の大作『天皇の世紀』に取り組んだ。作家の抑制のきいた文体に感動するとともに、作品の中に引用されている数多くの古文書類の解説に努め、約2年がかりで完読した。この大作への入門を果たしたグループ一同は、幕末維新という変革の時代の息吹を感じつつけている。

「読む会」有志が、作品からとくに感銘を受けたところ、歴史叙述として啓発されたところを報告する。

日時:平成28年5月28日(土) 午後2時～4時30分

— 開場:午後1時30分 —

会場:神奈川近代文学館ホール

横浜市中区山手町110(港の見える丘公園内)

1.みなとみらい線「元町・中華街」駅下車8分(5番から谷戸坂、または6番出口からはアメリカ山公園経由:エレベータあり)

2.バス路線 ①または②系統 ①桜木町駅～保土ヶ谷駅東口

②山手駅～桜木町駅いずれも「港の見える丘公園」下車徒歩2分

入場:先着200名様(資料代500円)当日、会場へ直接お越し下さい
(プログラム内容に変更のある場合があります。予めご了承ください。)

主催:大佛次郎研究会

<http://www.osaragi-jiro.com/>

共催:大佛次郎記念館

(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

<http://osaragi.yaf.jp.org>

後援:神奈川近代文学館

公益財団法人 神奈川文学振興会

問合せ:大佛次郎記念館

TEL045-622-5002

FAX045-622-5071